

第4連区 仏教壯年会セミナーが9月7日に山口市内で開催されました

山陰教区仏教壯年会連盟 理事長 武田英教

「仏教壯年会セミナー」は、仏教壯年会連盟の重点目標「寺院仏壯の結成率50%」に向け、組織拡大を主眼に連区内で開催担当教区持ち回りにより取り組まれてきました。しかし現状は休退会数が新規結成数を上回り、寺院仏壯の結成率は23.5%に留まっています。

こうした状況を踏まえ、従来からの目的である「仏壯の組織拡大」に加え、魅力的な活動が組織の拡大につながるとの考え方から、昨年度より「活動の充実」をセミナーの目的に加え、「組織拡大」か「活動充実」を選択し開催することとされています。

第4連区では山口教区が担当教区となり、9月7日、山口市徳地岸見の大見山 超勝寺、岸見の石風呂に於いて、教区の独自性を活かした参加・体験型のセミナーとして、「活動充実」に視点をおいた仏教壯年会セミナーが開催され、超勝寺での開会行事や活動事例紹介のあと、石風呂・テントサウナの説明と体験、講話、夕方はホテルに戻り懇親会という流れで進みました。

活動事例紹介では、山口教区 小月組 明圓寺仏教壯年会 田村茂善さんより、小月組実践運動推進協議会の取組みとして行われた、子ども食堂の学習会の様子や食品提供で子ども食堂を支援した活動事例の報告をいただきました。

開会行事・活動事例報告の後、300メートルほど移動し、岸見石風呂保存会の皆様のご協力のもと石風呂体験と、サウナ施設「ヴィエハッタヴァ」の河上 敦さんのお世話によりテントサウナを体験させていただきました。

4～6名で石風呂やテントサウナに入り、単位会や組での活動状況や課題、これからの仏教壯年会活動の在り方などについて語り合い、心と体を整えつつ、朋友の輪を広げることができました。



講話では、佛教壯年会連盟講師 北山祐章師（備後教区沼隈南組光源寺住職）より、佛教壯年会活動について全国的に人口が減少し厳しい状況にあること、組連盟へ直接加入されている事例があること、面白い活動や楽しい活動を取り入れる必要性、他の教化団体との協力体制の検討、お寺を中心にしながらも活動の主体は住職ではなく壯年会であるべきことなど、今後の活動に向けての課題を整理していただきました。



岸見の石風呂について記述した「石風呂の記」によれば、1186年（文治2年）4月、東大寺再建の用材搬出の人夫の医療目的に俊乗房重源（しゅんじょうぼうしうげん）が作った熱気浴の施設とされています。

会所をお引き受けいただいた、超勝寺の大來尚順住職も岸見石風呂保存会の一員として地域の中で活動されているとのことなどお聞かせくださいました。

今回、山口教区佛教壯年会連盟の企画により開催地域の特色を生かしたプログラムを組んでいただきました。先人から受け継がれ地域に根付く文化に触れる体験を通し、これから佛教壯年会活動の在り方を語り合う貴重な時間となりました。

